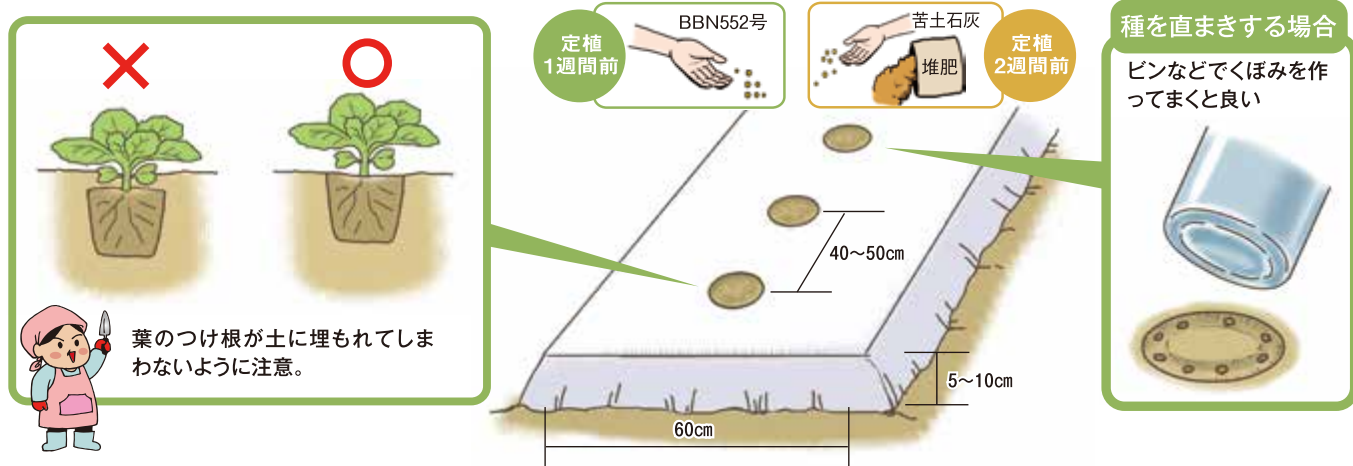




種まきから60〜90日、結球したハクサイの頭の部分を押さえてみて固く締まっているようなら収穫です。早生から晩生まで約1カ月の差があるので、早生と晩生を植えておけば長い期間収穫することができます。ハクサイを少し斜めに押し倒しながら包丁を入れるとうまく採れます。

収穫

品種にこだわらない場合は、グリーンファームなどで売られている苗を植えるといいよ!



直まきやポット育苗の場合は徐々に間引いていき、本葉が5枚の頃に1本にします。ポット育苗の場合は1本に仕立てたら、根鉢を崩さないように注意しながら定植します。本葉が8枚の頃とその2週間後に追肥します。マルチの穴から中にばらまきのようにしたり、マルチをはいでうねの肩に施します。マルチがない場合は土寄せもおきましよう。

間引き・追肥・土寄せ

広がっている外葉をまとめて、ハクサイの頭をひもで縛って霜対策をしよう。



霜が降りると葉が傷みます。外葉で球を包んで縛っておけば多少の霜なら防げます。強い霜には耐えられないので、その前に収穫して新聞紙に包んで、凍みない涼しい場所で立てておくことが保存できます。

いらない外葉を押し下げてからハクサイを少し斜めに押し倒し、包丁を入れて収穫する。



野菜栽培年間講習会

「ほうさくマスターClub」9月から受講者募集!

昨年10月に開始した「ほうさくマスターClub」を今年度も開講します。直売所への出荷や家庭菜園のさらなるステップアップを目指す方のための通年講習会です。詳細はJAN!JAN!9月号に掲載予定です。



ほうさくClub!に関するお問い合わせは、各グリーンファーム店まで

◎中央店 ☎29-8177
◎さなだ店 ☎72-8072
◎しおだ店 ☎39-8118
◎東部店 ☎62-0665
◎まるこ店 ☎42-2977
◎西部店 ☎22-4091
◎よだくぼ南部店 ☎85-2400



「ハクサイ」に挑戦!

★これがハクサイのスケジュールだよ。

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
春作	種まき	定植	収穫								
			秋作	種まき	定植	収穫					

●施肥基準 (1㎡あたり・一例) ■苦土石灰100g ■堆肥3kg ■BBN552号60g ■BB追肥N30号15g×2回

文中の肥料等は一例です。地区によっては違う種類で対応している場合もあります。不明な点は、営農技術員にお問い合わせください。



種まき・育苗

秋作で種を直まきする場合は、ピンや缶などの底を土に押し当ててくぼみを作り、1カ所に7〜8粒ほど種をまきます。軽く覆土し、手のひらで押さえておきます。夏の種まきは乾燥しやすいので水やりに注意しましょう。育苗するならポットやセルトレイを使います。セルトレイなら穴に種を1粒ずつまくので間引きの手間が省けます。

長野県は夏のハクサイ生産が日本一です。ハクサイの仲間には非結球、半結球、結球の3種類に大きく分けられます。現在主になっている結球ハクサイは、原産地の中国では品種改良により18世紀頃に誕生しています。日本には何度か入ってきていたようですが、他のアブラナ科の花粉と交雑しやすい、種を取って育ててもハクサイではなくなってしまうのがオチでした。苦勞と工夫の末、日本では明治〜大正時代に結球ハクサイの育種に成功しています。英語では「napa cabbage」とか「nappa cabbage」と呼ばれています。「napa」は日本語の菜っ葉からきているようです。今や韓国でも日本でも欠かせない野菜です。

畑の準備・定植

定植の2週間前に苦土石灰と堆肥を、1週間前に化成肥料をまいて耕します。うねは幅60cm、高さ5〜10cm程度に作ります。マルチは土の跳ね返りや草が生えるのを防ぐ他、保温効果もあるので使ったほうが良いでしょう。うねに水をたっぷりやってからマルチを張りまします。植え穴は40〜50cmの間隔にして苗を植えます。苗の土の高さとうねの土の高さが同じになるよう、深植えや浅植えをしないようにします。種まきや定植をしたら、防虫ネットをトンネル掛けしておくとか害虫の心配が軽減できます。種まき定植時に使う粒状の殺虫剤を利用すると初期の害虫被害を防ぐことができます。特に秋作のハクサイはアブラムシやアオムシ、コナガ、ヨトウムシの発生が目立ち、適切に防除しないと食用にできなくなることもあるので注意が必要です。虫を見つけたらすぐに殺虫剤を使って対処しましょう。防虫ネットを使っている場合でも、たまにめくって虫がいないか確認しましょう。苗を植えてすぐに倒れるのならネキリムシの仕業です。定植前に対象の殺虫剤を土に混ぜ込んだり表面にまいたりして処理しておきます。